

第2学年 特別活動（学級活動（1））学習指導案

日 時 令和5年6月16日（金）

子ども 2年平山学級 32名

指導者 平山 訓之

I 議題名

<授業の見どころ>

「1年生なかよし大きくせん」をしよう
～1年生となかよくなるろう～

「比べ合い」や「まとめ合い」の段階
で子どもたちが教師の助言をもとに合意
形成に向けて話し合う場面

II 議題の指導構想

1 議題について

- 本学級の子どもたちは明るく素直であり、教科の学習や行事の取組、そして話し合い活動に前向きに取り組む子どもが多い。スタートアップカリキュラムのもと、学校生活にも慣れ、友達とのかかわりや毎日の学習を楽しみに生き生きと登校している姿が見られる。

これまでの実践の中で、5月の初めには、低学団で行った「こいのぼり集会」を経験し、待ちに待った1年生とのかかわりをスタートさせた。また、本題材の実践の直前には2回目の運動会を経験し、約2週間、1年生の子どもたちと密接にかかわり合いながら活動してきた。これらの活動を通して、4月当初よりも「1年生と仲良くなった」と感じている子どもが見られる一方で、「（4月に思い描いていたように）1年生と仲良くできていない」と感じている子どもも少なくない。このような学びの文脈から、1年生との絆を深め、集団としての結びつきをより一層強くするためにはどうすればよいかを話し合い、実践の場で共に活動することは、とても価値のあることと考える。

- 本議題は特別活動の活動内容（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」における子どもたちの自発的・自治的活動をより一層高めるために設定した。教師の助言を受けながら子どもたちが活動計画を作成し、役割を分担して話し合い活動を自主的に進めていく。このことにより友達と考えを認め合い、1年生との絆を深める取組を行っていきにはどうしたらよいかを考え、実践することにより、相手の立場に立ってよりよい人間関係を築こうとする実践的な態度を養うことを主なねらいとしている。

そこで、子どもたちが協力して活動したり、1年生との絆をさらに深めたりするような取組を行うことによって、学級全員の結びつきを強め、学年経営計画に位置付ける「身近にいる人のことを思って、相手が温かい気持ちになるような行動をする子ども」の育成に繋がると考える。子どもたちがお互いのことを理解し合い、認め合うことができる雰囲気は、よりよい学級経営の基盤になる。このような学級では、子どもたちは自己の可能性を十分に発揮しようと活動意欲が向上すると同時に、集団に対する所属感をもち、友達に積極的に働きかけるようになる。子どもたちがお互いのことを認め合い、支え合えるような活動内容を考え、実践することにより、集団の絆をさらに深めることができる題材である。以上のことから本題材を設定した。

- 指導にあたっては、次の2点に留意する。

一点目は、**経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ**による問題発見の過程である。これまでの経験や実践と本題材で解決すべき問題を結びつけながら議題選定をし、本時の話し合いでも確認する。この題材では、学級の友達との仲を深める活動や運動会の振り返りを生かし、「4月当初よりも1年生と仲良くなったものの課題が見られる」ことに気付かせたい。

【手立て1「学びの文脈」のデザイン】

二点目は**思考を整理するための教師の働きかけ**による話し合い活動である。話し合いの際の子どもによる提案理由の説明の後、教師が補足説明を行う。その際、これまでの実践や経験から本題材に繋がる問題が発見されたことを想起させ、修正・改善を繰り返していくことを確認する。また、意見の比べ合いの過程では、出し合った考えについて、考えを可視化したり、どのような解決方法が適切か「えらぶ」の視点を大切にしたりしながら助言を行っていく。また、まとめ合いの段階では、子どもたちがこれまでに経験してきた合意形成の方法や新たに試したい方法を活用しながら、よりよい合意形成ができるようにしていきたい。**【手立て2よりよく学ぶ3つの視点】**

また、実際の活動の準備期間や活動後には、本実践が次の実践へと繋がるよう、活動の成果と課題を全員で享有する。その中で、お互いのよさをとらえることができるように、認め合う場面を設定することでよりよい人間関係を構築しようとしたり、自己の考えを深めさせたりと集団の形成者としての見方・考え方を働かせる実践としていきたい。

2 議題構想図

議題の目標

1年生との仲を深めるための取組の内容について考え、話し合い、実践することを通して、話し合い活動の進め方や準備の仕方を理解し、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。

議題の評価規準

指導項目	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
話し合い活動	① 実行委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方を理解している。	④ 学級の解決すべき問題を自分事として捉え、解決するための方法を考えている。	⑦ みんなで話し合う問題に関心をもち、実行委員会の活動や話し合いの準備などに、進んで取り組もうとしている。
	② 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や友達の意見の聞き方を理解し、活動の仕方を身に付けている。	⑤ 1年生との仲を深めるための取組は何かを考え、よりよい学級の生活について考え、判断し、合意形成に向けて話し合っている。	⑧ 下級生との絆を深める取組について、自分の考えをもって進んで話し合いに積極的に参加しようとしている。
集会活動	③ 1年生との仲を深める取組の決定したことについて、みんなで助け合って楽しく実践すること意義を理解している。	⑥ 1年生との仲を深めるための取組で仲良く助け合って実践している。	⑨ 下級生との絆を深める取組の決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。

復興教育との関連

○ いきる「③価値ある自分」

話し合い活動の中で、他者の考えを共感的に認めたり、板書に位置付けられたりするなど、みんなに価値付けられたときに自己有用感を感じる。

○ かかわる「⑨仲間とのつながり」

「1年生ともっと仲を深めたい」という提案理由を基に、自分と友達の考えを認め合いながら比較検討し、よりよい集団決定ができたとき、集団の所属感や仲間の大切さを感じる。

資質・能力の高まり

国語 2年2学期『ことばでみちあんない』

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを、落とさないように集中して聞き、内容を捉えて感想を持つことができる。
相手に伝わるように事柄の順序を考えることができる。

国語

2年1学期『あったらいいな、こんなもの』

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを、落とさないように集中して聞き、内容を捉えて感想をもつことができる。

教科の学習内容

1年 「みんなであそぼう」

1年 「OOしゅうかい」をしよう。

1年 「1年生ためのしゅうかい」をしよう。

2年5月 「がんばったね会」をしよう
それまでのがんばりを認め合いみんなの仲を深める集会活動の内容について考え、話し合い、実践することを通して、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。

本議題 2年6月 「1年生なかよし大さくせん」をしよう
目標
下級生との絆を深める取組の内容について考え、話し合い、実践することを通して、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。

2年 7月 「七夕しゅうかい」をしよう
それまでにどのような方法や活動があるか話し合うことで、自分たちの生活をよりよくしようとする態度を養う。

3年 「学級目標を決めよう」
3年 「雨の日の遊びをくふうしよう」
3年 「OO集会」をしよう。

他教科・領域等

行事 2年5月『運動会』

自ら設定しためあてに沿い、集団や自己の競技や演技についての課題や解決策を考え、仲間と協力して行動することができる。

国語 2年1学期『ともだちをさがそう』

自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。

見方・考え方を働かせるポイント

- 「自分たちにとって解決すべき問題は何か」という視点に立って活動の内容や工夫を考えたりする。
- 多様な意見の中で「自分にとってよいと思う意見」から「自分たちにとってよいと思う意見」に考えを広げていく。
- 話し合いでできたことをもとに「もっと仲を深めるために」という思いをもって実践したり振り返ったりする。

願い

- ・運動会で深まった仲をさらに深めたい。
- ・みんなが納得できるように話し合いができるようになりたい。
- ・時間内に話し合いをまとめられるようになりたい。

特別活動の力

- 納得できずにいる友達の思いに寄り添うことができる子どもが多い。
- 提案理由に立ち返って、自分の考えを発表できる子どもが見られる。
- 自分の思いや願いを進んで伝えられずにいる子どもも見られる。
- 自分の思いに固執してしまい、合意形成に向けて折り合いをつけられずにいる子どもが見られる。
- 「まとめ合い」の段階で折り合いをつけられず、時間内に合意形成できずにいる。

子どもの実態

3 指導計画

月日	参加児童	○活動内容 ・働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	指導上の留意点と評価
6/2 (金)	計画委員・班長	○ 6月の学級活動の計画を立てる。 運動会の取組の振り返りから、現在の学級の課題を話し合う。 ・ 学級として解決すべき問題という視点 で話し合う。	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆運動会の振り返りや学級の友達との仲を深める活動の振り返りを想起することで、現在の自分たちの課題を明確に自覚できるようにする。	・ 学級が楽しく豊かなものになることであるか、学級生活が向上することであるかという観点で議題を選定させる。
6/8 (木)	全員	○ 議題を決定する。 「1年生なかよし大きくせん」ではどんな活動をしたらよいか。 ○ 実行委員を決める。 ・ 学級として解決すべき問題であることを確認 する。		◆これまでの活動の様子を写真や動画で想起させ、どのような内容をみんなで話し合うべきか共有する。
6/9 (金)	実行委員	○ 集会の目標と内容を検討する。 ○ プログラムの原案を検討する。 ○ 話合いの柱の原案を検討する。 1年生との仲を深めるためには、どんな活動を行い、どんな工夫が必要か	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆これまでの活動の様子を写真や動画で想起させ、どのような内容をみんなで話し合うべきか共有する。	・ 実行委員が中心となって行うことと、みんなで決めることを分けながら準備を行う。【評価⑦】
6/9 (金)	全員	○ プログラムを決定する。 ○ 話合いの柱を決定する。 ・ 全員で話し合うべき内容を明確にし、進んで話合いに参加 する。	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆話合いに至った経緯や解決すべき問題を確認し、これまでの実践と結びつける。 <手立て2> 思考を整理するための教師の働きかけ	・ 実行委員会が原案を提示し、それに対して話合いを行わせるようにする。【評価⑤】
6/12 (月)	実行委員	○ 「1年生なかよし大きくせん」で行いたい活動についてアンケートを行う。	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆話合いに至った経緯や解決すべき問題を確認し、これまでの実践と結びつける。 <手立て2> 思考を整理するための教師の働きかけ	・ どんな集会をしたいのかを実行委員が事前に把握することで、学級の実態を確認させる。
6/13 (火)	全員	○ アンケートの結果を発表する。 ○ 話し合う内容について確認する。 ○ 学級会カードに自分の考えを記入する。 ・ 学級での話合いに向けて、自分の考えを明確にもち話合いへの意欲を高める 。	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆話合いに至った経緯や解決すべき問題を確認し、これまでの実践と結びつける。 <手立て2> 思考を整理するための教師の働きかけ	・ アンケート結果から、活動内容を実行委員がいくつか絞り、そこから選択させるようにする。 ・ 学級会カードに自分の考えを記入させる。【評価②】
6/14 (水)	全員	○ 本時の学級会において、みんなで解決していく問題であることを確認する。 ・ 実践の目的を再度確認し、問題意識を高める 。	<手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ◆話合いに至った経緯や解決すべき問題を確認し、これまでの実践と結びつける。 <手立て2> 思考を整理するための教師の働きかけ	・ 実行委員が事前に学級会の話合いの柱・提案理由・話合いのゴールを全員に共通理解させるようにする。【評価④】
6/15 (木)	進行係	○ 係の打ち合わせをする。	【よりよく学ぶ3つの視点】 ①「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を意識させるための教師の助言 ◆これまでの実践の経験を想起させる助言 ◆合意形成をするための効果的な方法を選択し、活用させるための助言	・ 実際の話合いの場面を想定しながら具体的に指導する。(進行・板書の確認) ・ 教師の助言を受けながら、自分たちで決定できるようにする。【評価⑤・⑧】
6/16 (金) 本時	全員	○ 「1年生なかよし大きくせん」を行うためには、どんな活動をすればよいか話し合う。 ・ 提案理由や「学級のみんなにとって」という視点 で話し合う。	②話合いを深めたり促進したりしながら、一人一人の学びを保障するためのICTの活用 ◆出された意見の学級の賛成の状況を視覚化し自分たちにとってよりよい考えは何か選択させる一助とする。	・ 集会の目標を意識して、進めさせるようにする。【評価③・⑨】
	各係	○ 集会の準備を行う。		・ 決まったことや準備してきたことを自分たちの力でできるように支援する。【評価⑥】
6/21 (水)	全員	○ 「1年生なかよし大きくせん」を行う。 ○ 「1年生なかよし大きくせん」の振り返りを書く。		・ 今回の取組を通して自他の頑張りについて記述させる。【評価⑥】

Ⅲ 本時の指導計画

1 目標

○ 「1年生なかよし大きくせん」の内容について話し合い、合意形成に向けて建設的に話し合うことができる。

2 評価規準

【思考・判断・表現】

1年生との仲を深めるための取組は何かを考え、よりよい学級の生活について考え、判断し、合意形成に向けて話し合っている。

<努力を要する状況の児童への手立て>

友達の考えを聞いたり、板書に位置付けられた考えを見せたりして、相手の考え方を理解できるようにする。

3 展開

活動の流れ	子どもの活動	時間	研究にかかわる手立て	留意点と評価
1 始めの言葉	○ 司会の合図で話し合いを始める。	1		・ 事前に一人一人の考えを把握し、話し合いの活性化を図る。
2 係の紹介	○ 司会が係の紹介を行う。	1		
3 話し合いのめあての確認	○ 話し合いのめあてを確認する。	1		
4 議題の確認	○ 議題を確認する。 「1年生なかよし大きくせん」ではどんな活動をしたらよいか。	1		
5 提案理由の説明	○ 提案者が「1年生との仲を深めたい」という内容を話す。 ○ 決まっていること（条件）を確認する。	6	<p><手立て1> 経験や実践を結び付けて考えるための教師の働きかけ 【学びの文脈のデザイン】 ・ 運動会のかかわりの中で1年生との仲を深めきれなかったことから今回の話し合いを行うことにしたこと提案理由の後に補足する。</p>	・ 提案理由の説明の中で、話し合いが行われる経緯について説明させる。
6 話し合い 【話し合いの柱】	○ 自分の考えとその理由を出し合う。 ○ 活動の工夫	25	<p><手立て2> 思考を整理するための教師の働きかけ 【よりよく学ぶ3つの視点】 ①「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を意識させるための教師の助言 ・ 話し合いが停滞したり、合意形成に向ったりする場面において、前回の実践において話し合ったことやその際にどのように合意形成したか想起させる助言を行う。 ②話し合いを深めたり促進したりしながら、一人一人の学びを保障するためのICTの活用 ・ 出された意見の学級の賛成の状況を視覚化し自分たちにとってよりよい考えは何か選択させる一助とする。</p>	・ 考えが変わった子どもには、その理由を話すように促し、考えの深まりを認める。 ・ 発言意欲が低い子どもにも指名しながら発言を促し、その努力を称揚する。 【思考・判断・表現】 1年生との仲を深めるための取組は何かを考え、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。(監・カト)
7 決まったことの確認	○ ノート記録が発表する。	1		・ 決まったことを短く発表させる。
8 今日の話合いの振り返り	○ 自分の考えが話し合いを経てどのように変わったか、深まったかを学級会カードに書き、発表する。	5		・ 話し合いや活動に対しての意識の持続化を図るために、振り返りを行わせる。
9 先生から	○ 教師の話を聞く。	3	<p>それまでの経験や実践と問題を結び付けながら、【つなぐ】、問題解決のために自分や集団にとってよりよい考えや方法を選び【えらぶ】、納得いくまで合意形成を図ろうとする【つかう】姿</p>	・ 助言の中で、考え方のよさや参加態度などを賞賛し、話し合ったことの満足感や実践への期待感を高める。
10 終わりの言葉	○ 司会が話す。	1	<p>【期待する子どもの振り返り】 前にやった「がんばったね会」の時のことを思い出してみんなで決めることができよかった。</p>	

